

2-3 石内まちづくりアンケートの調査の概要

(1) アンケート調査の概要

○実施時期：平成16(2004)年7月～8月

○石内の全世帯(514世帯)に調査票を配布。回収数は420票、回収率は81.7%。

○回答者の属性については、以下のグラフのとおりです。

図 居住地区

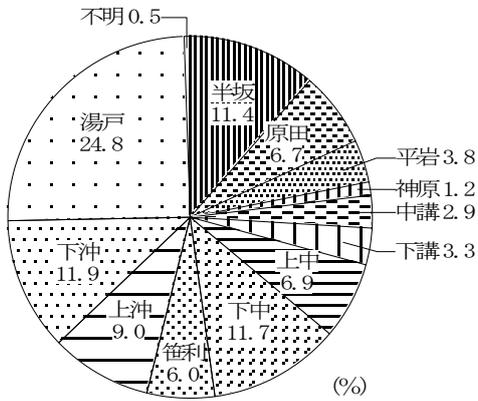


図 性別

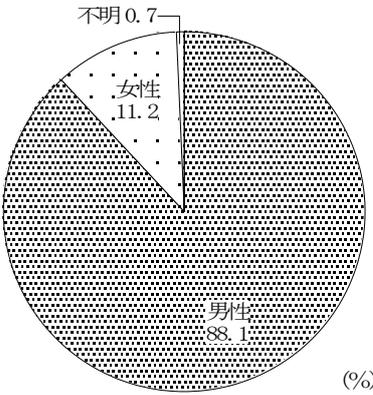


図 年齢階層

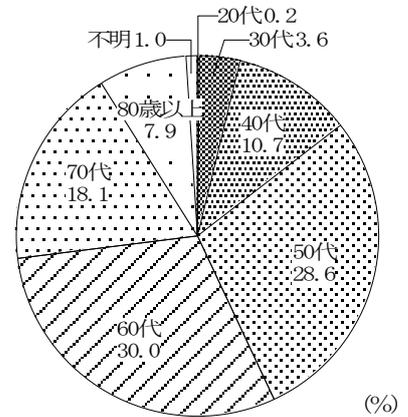


図 農家・非農家

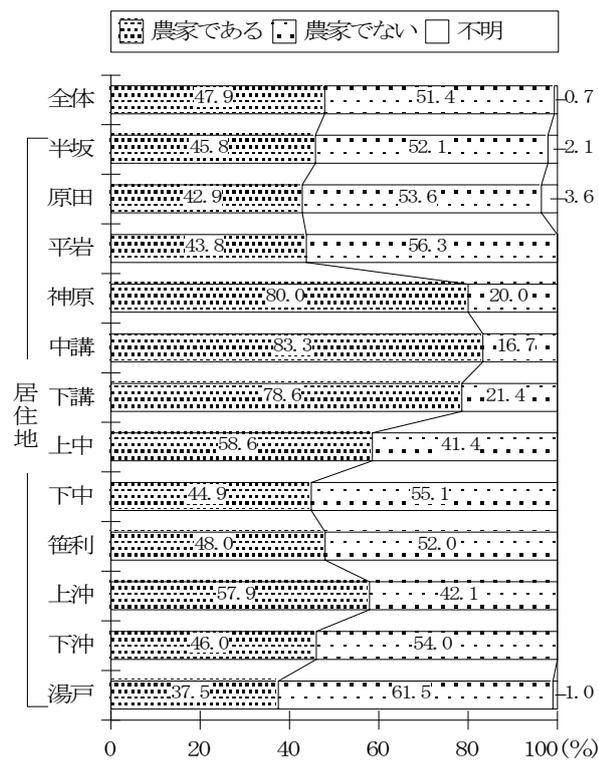
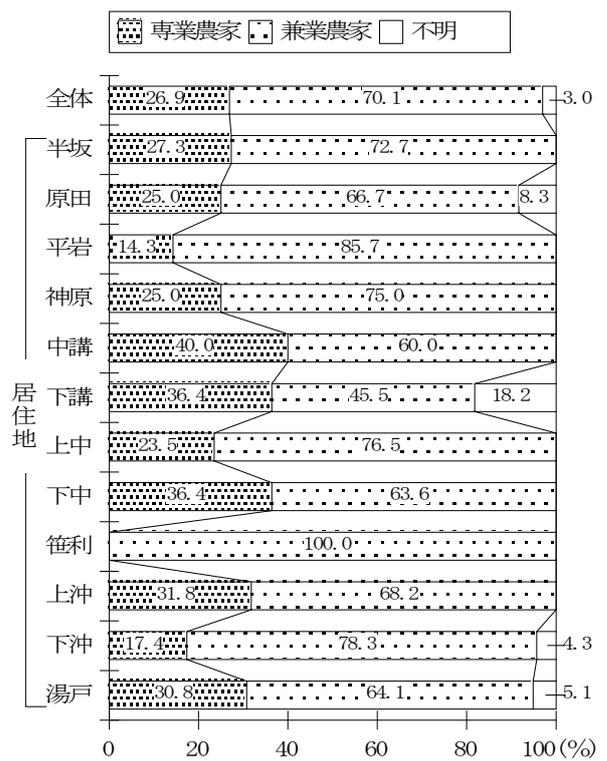


図 専業別農家の状況 (農家)



(2) 現在の生活環境

① 生活環境の評価(不満度)

- 全体では、不満度(不満+やや不満)が特に高いのは、“公共交通機関の状況”(84.3%)と“病院などの利用のしやすさ”(81.0%)で、ともに80%を超えています。
- 次いで、“下水の処理状況”(69.5%)、“通勤・通学の便利さ”(69.3%)、“公園・広場の利用のしやすさ”(68.3%)、“交通の安全性”(62.6%)、“子どもの遊ぶ環境”(60.5%)なども不満度が高く、評価は低くなっています。
- 一方、不満度が低いのは“自然の豊かさ”(11.4%)、“風景の美しさ”(15.2%)、“空気のきれいさ”(24.5%)などで、これらの評価は高いといえます。
- 地区別でみると、“交通の安全性”や“公共交通機関の状況”、“病院などの利用のしやすさ”、“公園・広場の利用のしやすさ”など、ほぼどの地区も共通して不満度が高い項目となっています。
- また、“災害に対する安全性”や“生活道路、農道等の道路状況”、“スポーツ・レクリエーション活動の場の整備状況”など、地区ごとでの違いが大きい項目もあります。
- 農家・非農家別にみると、ほぼ両者は類似した傾向にあります。

図 生活環境の評価(不満度)

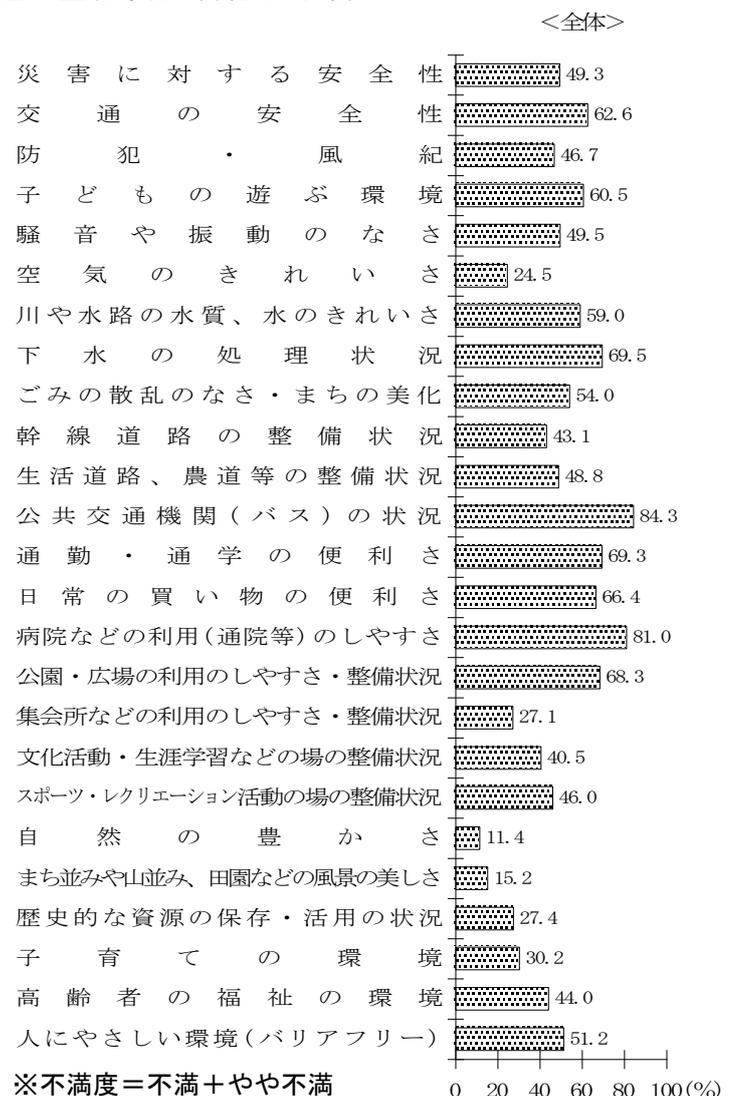


表 地区別の生活環境の評価（不満度）

項目	全体	居住地											
		半坂	原田	平岩	神原	中講	下講	上中	下中	笹利	上沖	下沖	湯戸
災害に対する安全性	49.3	52.1	53.6	25.0	100.0	75.0	64.3	34.5	42.9	72.0	55.3	28.0	52.9
交通の安全性	62.6	66.7	46.4	62.5	80.0	66.7	57.1	72.4	53.1	92.0	76.3	52.0	60.6
防犯・風紀	46.7	41.7	46.4	43.8	80.0	66.7	50.0	55.2	46.9	64.0	50.0	30.0	45.2
子どもの遊ぶ環境	60.5	45.8	60.7	62.5	80.0	83.3	57.1	62.1	53.1	80.0	65.8	56.0	63.5
騒音や振動のなさ	49.5	64.6	78.6	31.3	40.0	25.0	35.7	51.7	53.1	60.0	57.9	50.0	35.6
空気のきれいさ	24.5	29.2	42.9	25.0	0.0	25.0	14.3	20.7	28.6	48.0	21.1	16.0	19.2
川や水路の水質、水のきれいさ	59.0	62.5	67.9	62.5	60.0	41.7	50.0	69.0	53.1	76.0	71.1	60.0	50.0
下水の処理状況	69.5	70.8	46.4	62.5	60.0	41.7	64.3	79.3	69.4	80.0	71.1	80.0	71.2
ごみの散乱のなさ・まちの美化	54.0	60.4	50.0	75.0	100.0	66.7	42.9	58.6	46.9	80.0	52.6	52.0	44.2
幹線道路の整備状況	43.1	43.8	39.3	31.3	80.0	41.7	28.6	31.0	42.9	60.0	60.5	34.0	44.2
生活道路、農道等の整備状況	48.8	45.8	46.4	62.5	80.0	41.7	28.6	58.6	44.9	60.0	63.2	36.0	49.0
公共交通機関(バス)の状況	84.3	68.8	75.0	100.0	100.0	91.7	64.3	89.7	87.8	84.0	94.7	86.0	86.5
通勤・通学の便利さ	69.3	54.2	60.7	93.8	100.0	91.7	50.0	75.9	67.3	84.0	78.9	62.0	70.2
日常の買い物の便利さ	66.4	62.5	53.6	81.3	100.0	91.7	64.3	72.4	73.5	72.0	60.5	60.0	65.4
病院などの利用(通院等)のしやすさ	81.0	75.0	78.6	100.0	100.0	100.0	85.7	89.7	77.6	80.0	84.2	82.0	76.9
公園・広場の利用のしやすさ・整備状況	68.3	62.5	60.7	68.8	80.0	91.7	64.3	79.3	67.3	64.0	57.9	72.0	72.1
集会所などの利用のしやすさ・整備状況	27.1	35.4	10.7	6.3	0.0	75.0	7.1	55.2	26.5	40.0	23.7	20.0	24.0
文化活動・生涯学習などの場の整備状況	40.5	39.6	35.7	43.8	80.0	91.7	21.4	51.7	30.6	60.0	36.8	32.0	39.4
スポーツ・レクリエーション活動の場の整備状況	46.0	45.8	39.3	68.8	80.0	91.7	42.9	62.1	36.7	44.0	39.5	46.0	41.3
自然の豊かさ	11.4	12.5	17.9	6.3	0.0	8.3	14.3	10.3	8.2	28.0	7.9	4.0	13.5
まち並みや山並み、田園などの風景の美しさ	15.2	27.1	17.9	6.3	20.0	25.0	14.3	24.1	10.2	24.0	13.2	8.0	11.5
歴史的な資源の保存・活用の状況	27.4	29.2	32.1	25.0	40.0	41.7	14.3	44.8	26.5	36.0	26.3	24.0	21.2
子育ての環境	30.2	29.2	28.6	37.5	40.0	41.7	35.7	27.6	36.7	56.0	28.9	16.0	26.9
高齢者の福祉の環境	44.0	52.1	46.4	56.3	80.0	83.3	64.3	41.4	38.8	68.0	36.8	36.0	33.7
人にやさしい環境(バリアフリー)	51.2	47.9	50.0	68.8	80.0	75.0	35.7	58.6	46.9	76.0	50.0	44.0	47.1

※不満度＝やや不満＋不満

■ 該当する項目で最も高い(1番高い)不満度

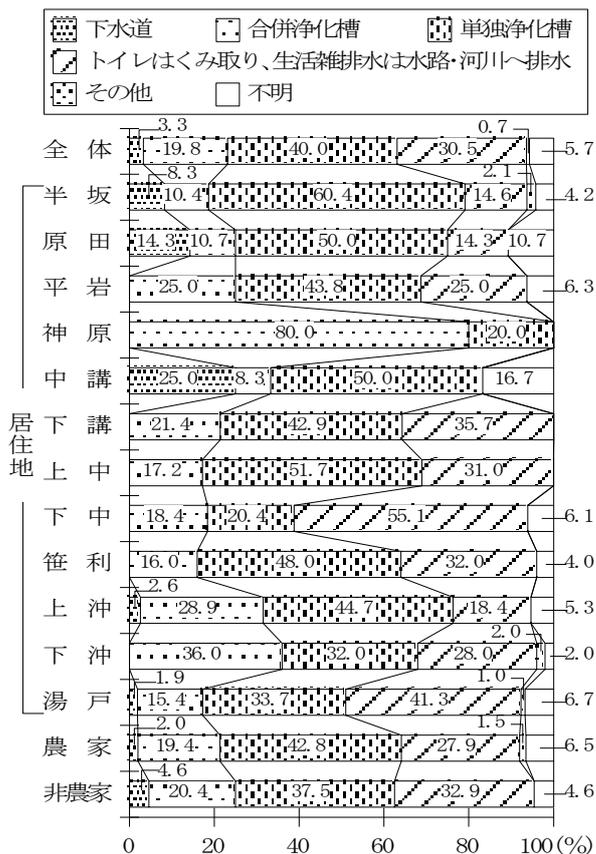
■ 該当する項目で2番目に高い不満度

□ 該当する項目で3番目に高い不満度

② 下水処理方法

- 全体では、“単独浄化槽”が40.0%と最も多く、次いで“トイレはくみ取り、生活雑排水は水路・河川”が30.5%となっています。
- 一方、“下水道”と“合併浄化槽”を加えた値は23.1%にとどまっています。
- 地区別でみると、神原で“合併浄化槽”が80.0%を占め、下沖でも36.0%と相対的に高くなっています。
- また、中講では“下水道”が25.0%と相対的に高くなっています。
- 一方、下中では“トイレはくみ取り、生活雑排水は水路・河川”が55.1%と過半数を占めています。

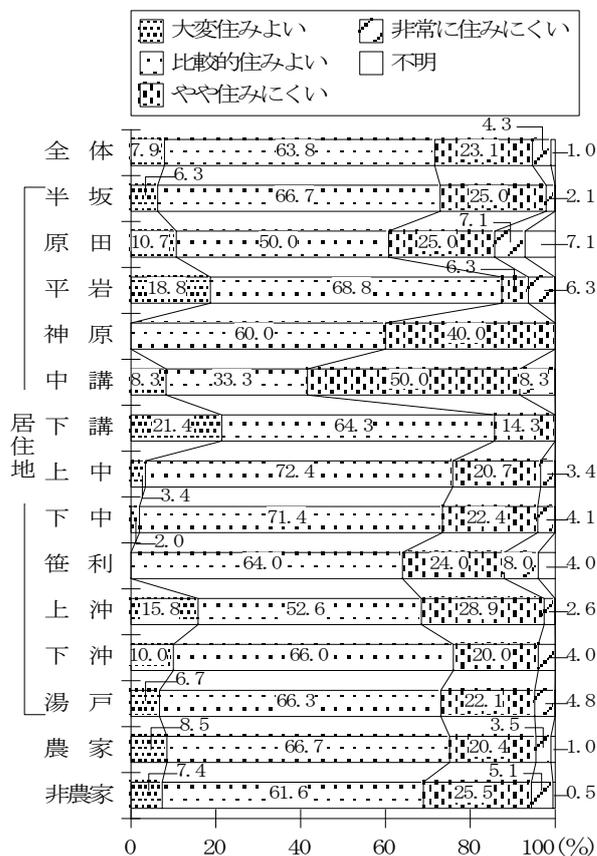
図 下水処理方法



③ 生活環境の総合的評価

- 全体では、“比較的住みよい”が63.8%を占め、これに“大変住みよい”を加えると71.7%に達します。ただし、“大変住みよい”は7.9%にとどまっています。
- 地区別でみると、平岩や下講での住みよさの評価が高いといえます。
- 一方、中講では“やや住みにくい”が50.0%、神原でも40.0%を占め、相対的に住みよさの評価が低くなっています。

図 生活環境の総合的評価



(3) 石内の魅力や問題点

① 石内の魅力・資源

○自由に記入してもらった石内の魅力・資源(自慢できることや好きな場所・施設、大切にしたいものなど)への意見は、215票に記入され、それらを分類すると421件(1票に複数意見あり)となります。また、内容については、資源を取り上げることに加え、保存・整備、魅力づくりの提案なども多数寄せられています。

○全体的な傾向としては、桜や川などの自然に関するものが219件と最も多く、次いで神楽や伝統芸能、城跡などの歴史的・文化的資源に関するものが147件と、特に多くなっています。

表 石内の魅力・資源

区分	指摘数(件)	主な意見
自然	219	○神原のしだれ桜 ○ホテルの里づくり(養殖) ○花見場所の保存、整備 ○山、川等豊かな自然 ○湯戸教徳寺もちづき桜(保護) ○石内川護岸整備(散歩道) ○樹木(桜)の植樹 ○かげともの道について など
歴史的・文化的資源	147	○神楽の保存 ○城跡、神社等の保存と石碑づくり等 ○新藤兼人記念館の設立 ○永井建子記念碑の設立 ○水晶ヶ城跡の整備等 ○白山八幡神社 ○俵みこしの保存、PR等 ○名所の案内板の設置 ○文化財の保存 など
施設整備	16	○名所への公園、遊歩道等の整備 ○ハイキングコースの整備 ○イベント会場の設置と駐車場の整備 など
生活環境	10	○田園風景 ○汚水の浄化 ○環境の整備 ○静かである ○広島市に近い など
行事・イベント	7	○神楽、神社での花火 ○秋祭の活性化 ○桜開花時期の女性会のお茶会 ○神原のしだれ桜の保護を目的としたイベントの開催 など
その他	22	○人間性が豊かで親密 ○石内小学生の生徒のあいさつ ○現状維持 など

② 石内の問題点

○自由に記入してもらった石内の問題点(不安や問題を感じる場所や事柄)への意見は、220票に記入され、それらを分類すると362件(1票に複数意見あり)となります。また、内容については、問題点の指摘に加え、改善・整備の提案なども多数寄せられています。

○全体的な傾向としては、道路や歩道の整備、交通量の増加などの道路・交通安全に関するものが156件、次いで川の汚れやごみの散乱、下水道の整備(未整備に対する問題点の指摘)などの環境衛生に関するものが119件と、特に多くなっています。

表 石内の問題点

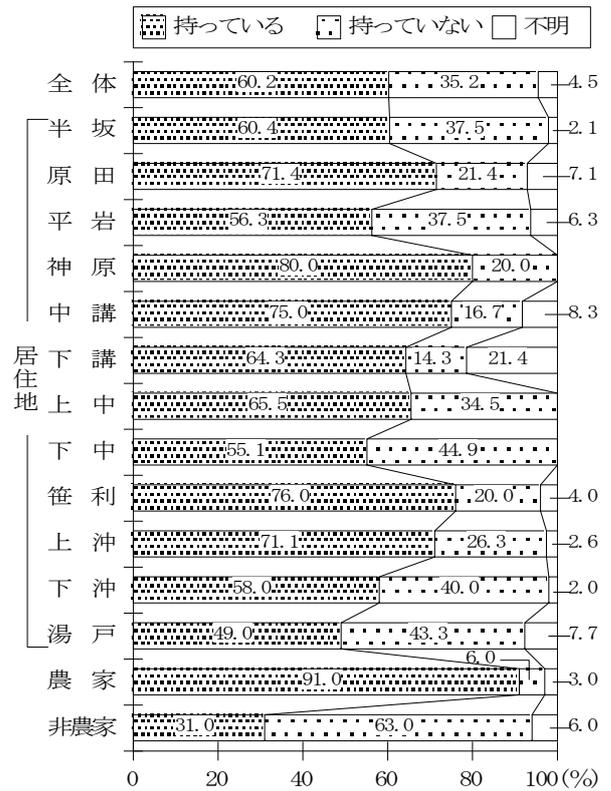
区分	指摘数(件)	主な意見
道路・交通安全	156	○道路・歩道の整備(石内バイパス、通学路等) ○交通量の増加(石内バイパス等) ○危険な交差点(五月が丘、下沖等) ○スピード違反(石内バイパス、笹利等) など
環境衛生	119	○川、河岸の汚れ、荒地化(石内川等) ○ごみの散乱(石内バイパス、藤の木等) ○下水道の整備 ○騒音、振動(石内地区、山陽道、事業所等) ○産業汚染 など
施設の不足・不備	24	○総合病院の設置 ○スーパーの設立 ○公共施設(区役所等)の設置 ○学校の整備(石内小学校校舎面積の不足等) など
農地・営農	19	○農地の維持管理への不安 ○集団営農の必要性 など
交通機関	13	○公共機関が不便 ○バスの増便 ○アストラムラインの延伸 など
防犯	13	○街灯の設置 ○不審者の流入 ○一部悪い ○暴走族(石内バイパス) など
防災	7	○崖崩れ ○水害、土砂災害等の安全対策がない ○土石流と河川の氾濫等、自然災害 ○防災連絡用スピーカーの設置 など
その他	11	○護岸の整備が個人負担となっている ○空き地の管理 ○石内バイパス沿線の第3次産業の台頭 ○高齢者の問題 など

(4) 土地の利用

① 土地の所有状況(居住の宅地以外)

- 全体では、居住している宅地以外の土地を“持っている”が60.2%を占めています。
- 地区別では、神原、笹利、中講、原田、上沖で“持っている”が70%を超えています。
- 一方、湯戸、下中、平岩では“持っている”が50%前後と、相対的に低くなっています。
- 農家・非農家別でみると、農家では“持っている”が91.0%に達しています。

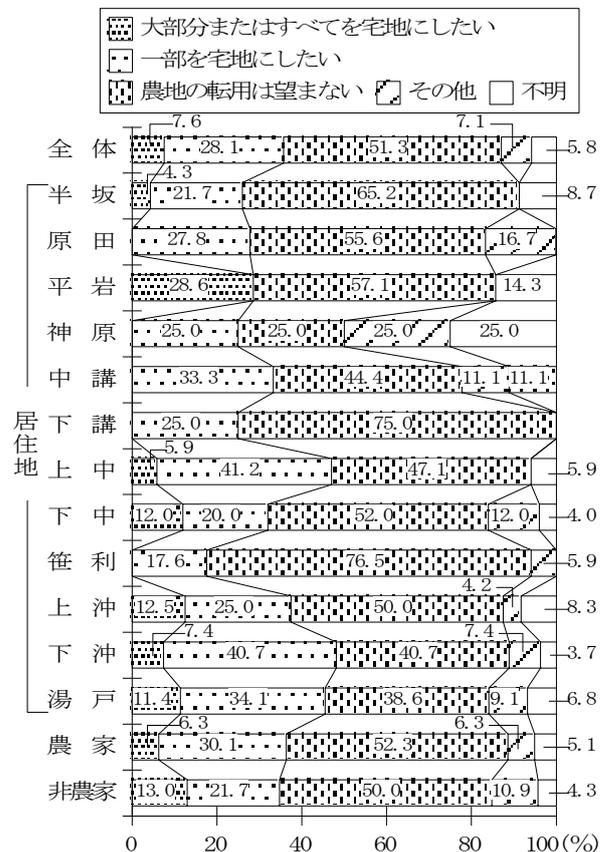
図 土地の所有状況（居住の宅地以外）



② 農地の転用の希望

- 全体では、“農地の転用は望まない”が51.3%と最も多く、次いで“一部を宅地にしたい”が28.1%となっています。
- また、“大部分またはすべてを宅地にしたい”は7.6%となっています。
- 地区別でみると、“農地の転用を望まない”の占める割合が高いのは、笹利、下講、半坂などです。
- 一方、“大部分またはすべてを宅地にしたい”と“一部を宅地にしたい”を合わせた割合が相対的に高いのは、上中、下沖、湯戸です。

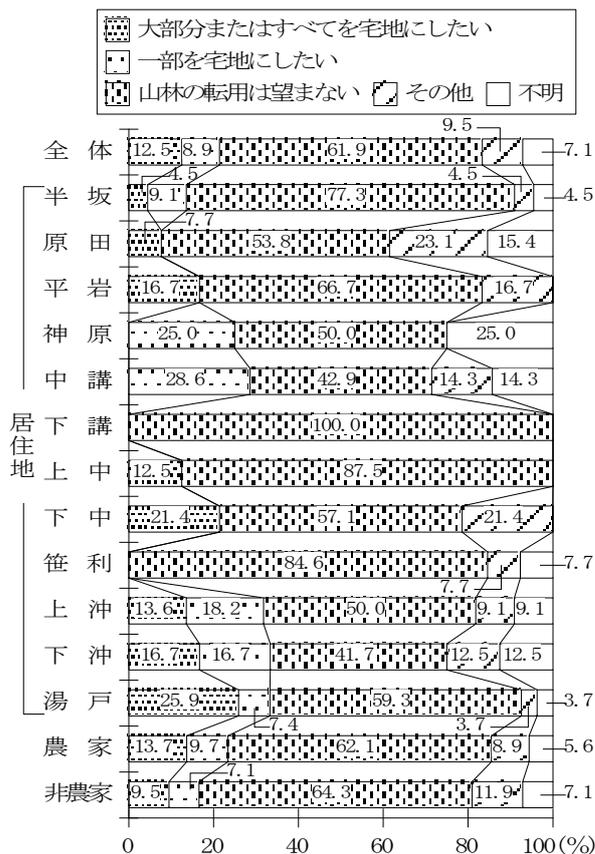
図 農地の転用の希望



③ 山林の転用の希望

- 全体では、“山林の転用は望まない”が61.9%と最も多く、農地以上に保全意向が強いといえます。
- 地区別でみると、“山林の転用は望まない”の占める割合が特に高いのは、下講(100%)、上中(87.5%)、笹利(84.6%)、半坂(77.3%)などです。
- 一方、“大部分またはすべてを宅地にしたい”と“一部を宅地にしたい”を合わせた割合が相対的に高いのは、下沖、湯戸、上沖で、30%強を占めています。

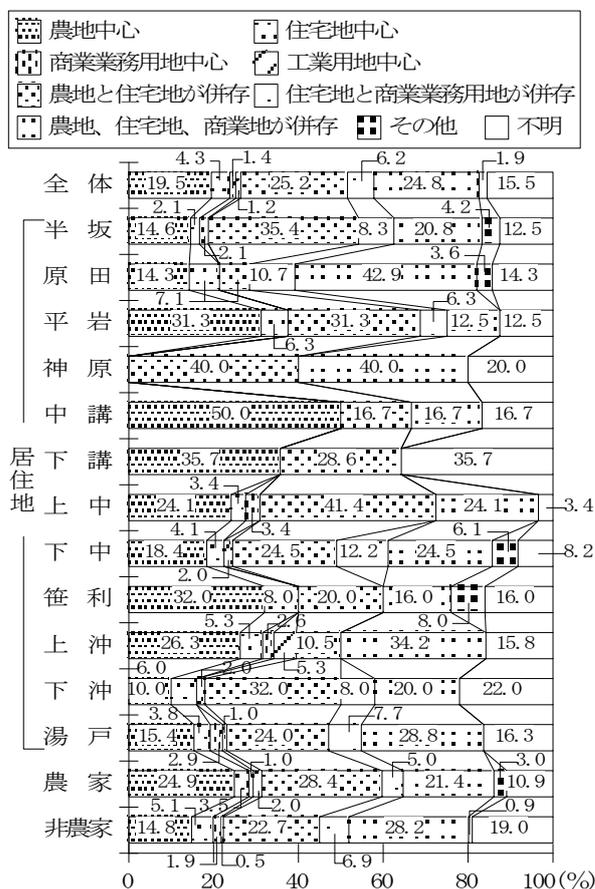
図 山林の転用の希望



④ 町内レベルでの将来の土地利用のあり方

- 全体では、“農地と住宅地が併存”が25.2%と最も多く、次いで“農地、住宅地、商業地が併存”が24.8%となり、この両者で過半数を占めています。
- また、3番目には“農地中心”の19.5%があがっています。
- 地区別でみると、中講では“農地中心”が50.0%、上中、神原では“農地と住宅地が併存”が約40%、原田、神原では“農地、住宅地、商業地が併存”が約40%と相対的に高くなっています。

図 町内レベルでの将来の土地利用のあり方



(5) 道路・交通

① 石内全体から見た道路整備

- 自由に記入してもらった石内全体からみた道路整備への意見は、113票に記入され、それらを分類すると171件（1票に複数意見あり）となります。
- この中で多くあげられたものとしては、“アストラムラインの五日市駅までの延伸”が21件、“石内バイパスと旧道との接続”が13件、“通学路の整備”が9件となっています。
- これら以外で3件以上の指摘があったもの(公共交通機関は除く)としては、以下のようになります。
 - ・石内川管理道を2車線に拡幅・舗装(7件)
 - ・藤の木～三の峠～下沖の道路拡幅(7件)
 - ・歩道の拡幅整備(石内川管理道、臼山八幡神社下、バリアフリー等)(7件)
 - ・湯戸～新幹線高架下間の道路拡幅・湯来線との接続(7件)
 - ・新設不要、現存する道路の整備の徹底(6件)
 - ・石内バイパスと外環状線の接続(6件)
 - ・笹利～神原間の道路の新設(5件)
 - ・バスの増便(石内バイパス～JR五日市駅、石内県道沿い、湯戸経由藤の木団地等)(5件)
 - ・石内川河岸整備(遊歩道)(4件)
 - ・トンネル(石内～己斐、石内～古田、石内バイパス～杜の街～西区山田、免許センター入口南交差点～アルパーク等)(4件)
 - ・交通網、交通手段の整備(3件)
 - ・消防車、救急車両の入れない道路の拡幅(3件)
 - ・法専寺下の道路の拡幅(湯戸～八幡)(3件)

② 町内会の範囲での道路整備

- 自由に記入してもらった町内会の範囲での道路整備への意見は、62票に記入され、それらを分類すると69件（1票に複数意見あり）となります。
- この中で多くあげられたものとしては、“石内バイパスと旧道との接続”が7件、“現存道路の拡幅整備”が5件、“笹利～神原間の道路の新設”が4件となっています。
- これら以外で2件以上の指摘があったものとしては、以下のようになります。
 - ・五日市 IC 南の側道の拡幅(3件)
 - ・渋滞解消(三の峠～新宮山～笹利線、シージャック付近、藤の木～笹利等)(3件)
 - ・石内川管理道を2車線に拡幅・舗装(2件)
 - ・石内地区の南北の道路の整備(2件)
 - ・河岸(梶毛川等)整備(遊歩道)(2件)
 - ・信号機の設置(草津～沼田道路、交差点等)(2件)
 - ・藤の木～石内バイパス間の道路をバイパス化(2件)
- また、町内会の範囲での指摘の中には、前記の石内全体から見た道路整備の内容も含まれており、両者を合わせて勘案し、石内の道路整備について検討していく必要があります。

③ 石内の交通機関のあり方・提案

- 自由に記入してもらった石内の交通機関のあり方への意見は、152票に記入され、それらを分類すると211件（1票に複数意見あり）となります。
- この中で多くあげられたものとしては、“アストラムラインの JR 五日市駅までの延伸”（37件）などアストラムラインの延伸関係が52件、バスの増便関係が43件、循環バス関係が35件、バス路線の開設（新設）関係が27件となっています。
- これら以外で3件以上の指摘があったものとしては、バス停関係が7件、“道路網、交通手段の整備”が6件、“通学路の整備”が6件、“午前午後、同ルートでの上下線の運行”が3件となっています。

表 石内の交通機関のあり方・提案

区 分	指摘数 (件)	主な意見
アストラムラインの延伸	52	○JR五日市駅まで ○環状化 ○アルパークまで ○廿日市も含め環状化 など
バスの増便	43	○石内バイパス区間 ○石内地区～八幡～JR五日市駅 ○広域公園～JR五日市駅等 ○石内～高速4号～中心地 ○バスセンターまで ○早朝、夜間 ○小型バスの増便（佐伯区内） など
循環バス	35	○石内地区～団地～JR五日市駅（アルパーク、区役所） ○石内地区内 ○近隣の団地等 ○循環バス、マイクロバスの計画（住民運営） など
バス路線の開設	27	○高速4号線～石内経由～湯来 ○藤の木～笹利～JR五日市駅（～己斐駅） ○（杜の町～）石内～コイン通り～五日市駅 ○石内経由～高速4号線 ○石内（旧道）～（美鈴が丘～）五日市経由～紙屋町 など
バス停	7	○バス停が遠い ○旧道のバス停を石内バイパスに移す ○石内バイパスのバス停の増設 ○バス停がどこにあるのか分からない など
その他	47	○道路網、交通手段の整備 ○通学路の整備 ○午前午後、同ルートでの上下線の運行 ○アストラムラインまでのアクセス強化 ○石内地区内はフリーストップ式にする ○石内の道路の通り抜け防止対策 ○公共交通機関の利用促進 ○バス路線のルート、時刻表の配布 など

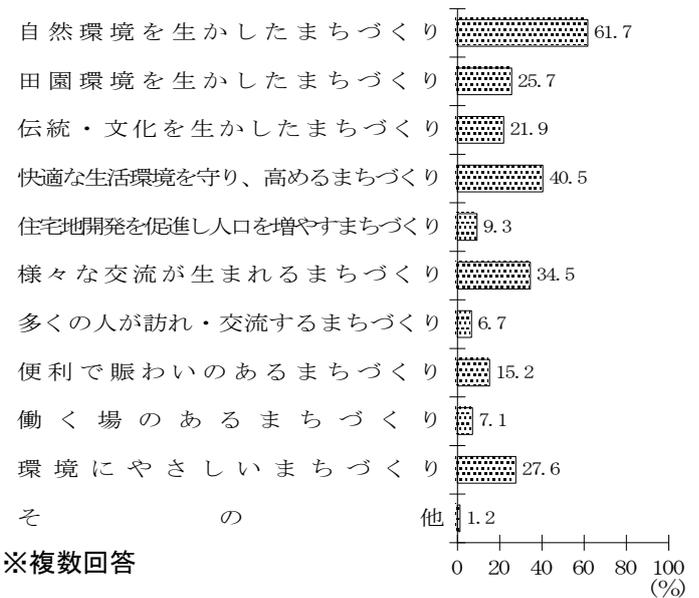
(6) 石内のまちづくりの方向と取り組み方

① まちづくりの方向

○全体では、“自然環境を生かしたまちづくり”が61.7%と最も多く、次いで“快適な生活環境を守り、高めるまちづくり”が40.5%、“様々な交流が生まれるまちづくり”が34.5%と上位3番目までにあげられます。

○また、“環境にやさしいまちづくり”や“田園環境を生かしたまちづくり”、“伝統・文化を生かしたまちづくり”も20%以上を占めています。

図 まちづくりの方向

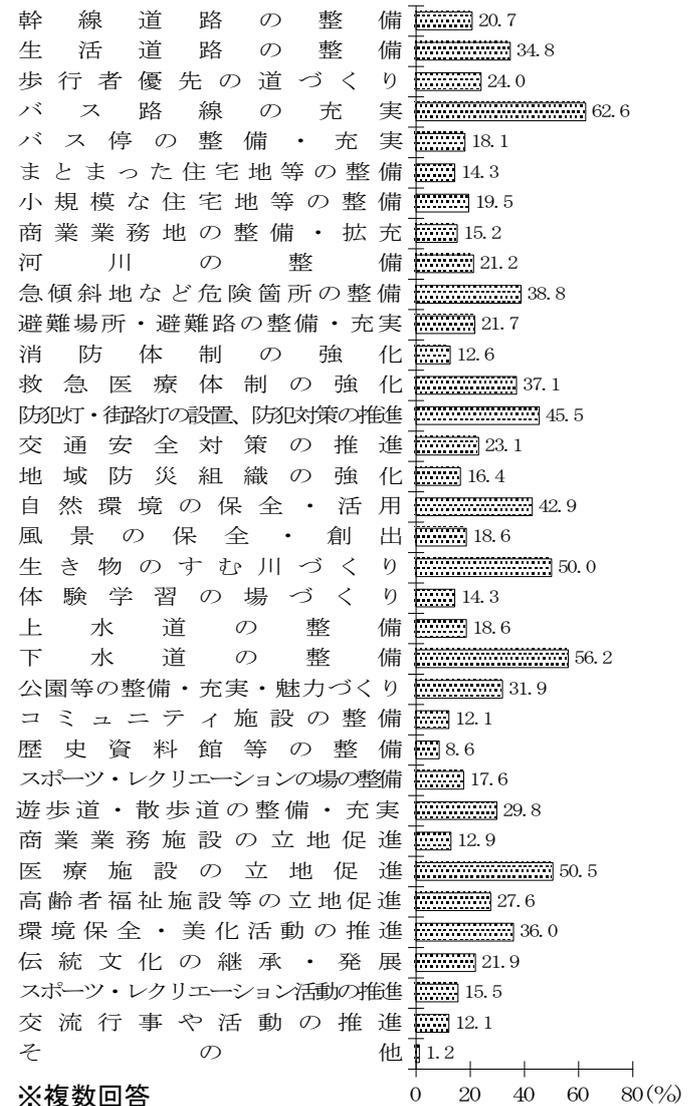


② まちづくりの重点施策

○全体では、“バス路線の充実”が62.6%と最も多く、次いで“下水道の整備”が56.2%、“医療施設の立地促進”が50.5%、“生き物のすむ川づくり”が50.0%となり、これら4項目ではそれぞれ半数以上の指摘があります。

○これらに次いで、“防犯灯・街路灯の設置、防犯対策の推進”（45.5%）、“自然環境の保全・活用”（42.9%）なども上位にあげられています。

図 まちづくりの重点施策



○次に、地区別で上位3番目までの項目を整理すると次のようになります。

表 地区別まちづくりの重点施策（上位3番目まで）

地区	1位	2位	3位
全体	○バス路線の充実 62.6%	○下水道の整備 56.2%	○医療施設の立地促進 50.5%
半坂	○下水道の整備 56.3% ○医療施設の立地促進56.3%	—	○バス路線の充実 52.1%
原田	○バス路線の充実 67.9%	○生き物のすむ川づくり 57.1%	○防犯灯・街路灯の設置、防犯対策の推進 53.6%
平岩	○バス路線の充実 81.3%	○環境保全・美化活動の推進 75.0%	○生き物のすむ川づくり 68.8%
神原	○生活道路の整備 100.0% ○防犯灯・街路灯の設置、防犯対策の推進100.0%	—	○医療施設の立地促進 80.0%
中講	○バス路線の充実 66.7%	○防犯灯・街路灯の設置、防犯対策の推進 58.3%	○生き物のすむ川づくり 50.0% ○上水道の整備50.0%
下講	○防犯灯・街路灯の設置、防犯対策の推進 57.1%	○自然環境の保全・活用 50.0% ○公園等の整備・充実・魅力づくり 50.0%	—
上中	○バス路線の充実 65.5% ○下水道の整備65.5%	—	○自然環境の保全・活用 62.1%
下中	○医療施設の立地促進 61.2%	○バス路線の充実 59.2%	○下水道の整備 51.0%
笹利	○下水道の整備 76.0%	○急傾斜地など危険箇所の整備 68.0%	○バス路線の充実 52.0%
上沖	○バス路線の充実 78.9%	○自然環境の保全・活用 65.8%	○生き物のすむ川づくり 60.5%
下沖	○下水道の整備 68.0%	○バス路線の充実 64.0%	○生き物のすむ川づくり 50.0% ○医療施設の立地促進50.0%
湯戸	○バス路線の充実 64.4%	○下水道の整備 54.8%	○医療施設の立地促進 51.0%

③ 基本構想づくりの必要性

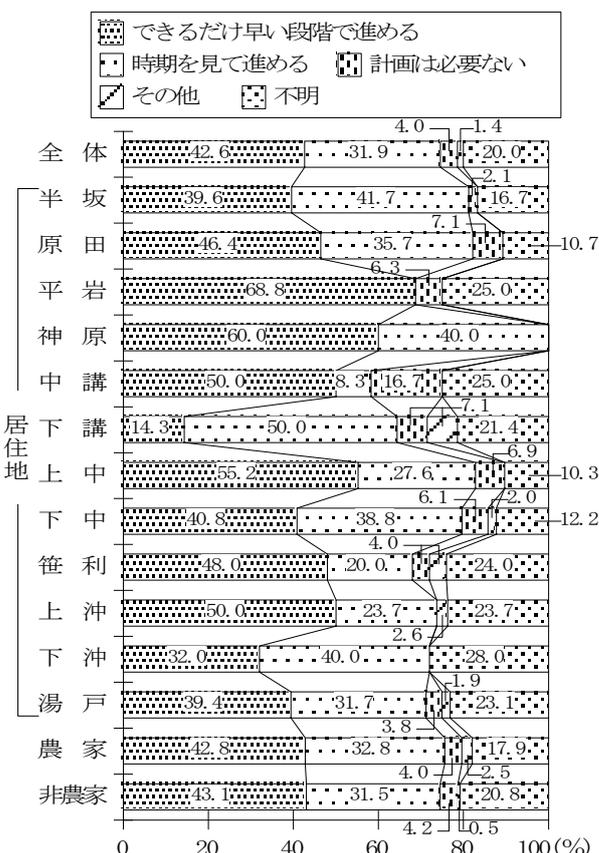
○全体では、“できるだけ早い段階で進める”が42.6%と最も多く、次いで“時期をみて進める”が31.9%となり、この両者を組み合わせた値は74.5%と、およそ4人に3人が肯定的にとらえていることとなります。

○一方、“計画は必要ない”は4.0%にとどまっています。

○地区別でみると、平岩で“できるだけ早い段階で進める”が68.8%と高くなっています。また、どの地区も肯定的にとらえている割合が過半数を占めています。

○一方、“計画は必要ない”は、中講で16.7%と相対的に高くなっているが、その他の地区はいずれも1桁台か皆無です。

図 基本構想づくりの必要性



(7) 農家対象

① 田(稲作)の面積

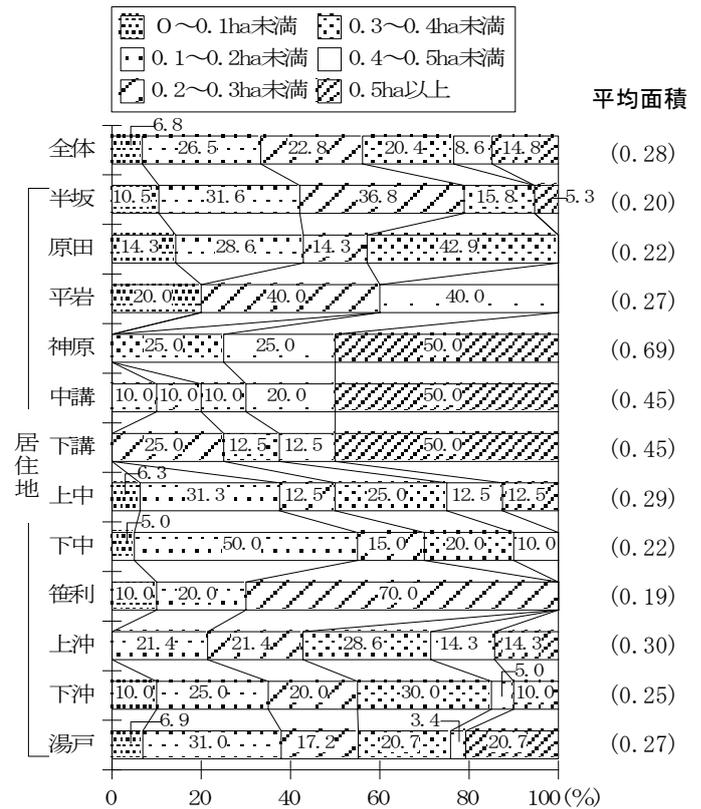
○全体では、“1～2反(0.1～0.2ha)未満”が26.5%と最も多く、次いで“2～3反(0.2～0.3ha)未満”が22.8%、“3～4反(0.3～0.4ha)未満”が20.4%となっています。

○また、3反(0.3ha)未満が56.1%、4反(0.4ha)未満では76.5%となり、平均面積は2反8畝(0.28ha)で小規模な農地の所有といえます。

○地区別でみると、神原、中講、下講で相対的に規模が大きくなっています。

※参考：平成12年の広島県の田のある農家1戸当たり経営耕地面積(田)7反4畝(0.74ha)

図 田(稲作)の面積



※不明は除く

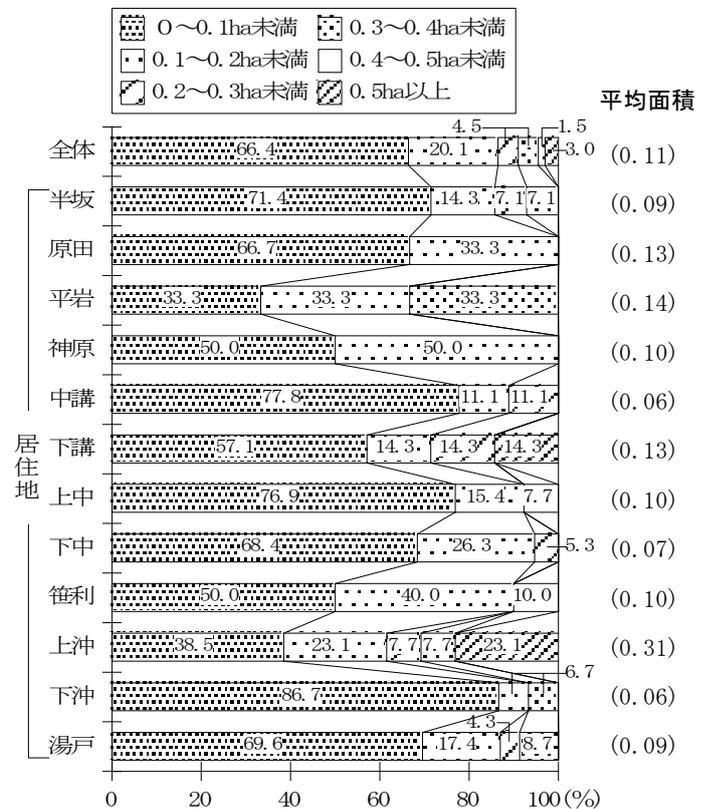
② 畑(耕作)の面積

○全体では、“1反(0.1ha)未満”が66.4%とほぼ2/3を占めています。

○また、平均面積は1反1畝(0.11ha)となっています。

○地区別でみると、上沖、平岩で相対的に規模が大きくなっています。

図 畑(耕作)の面積

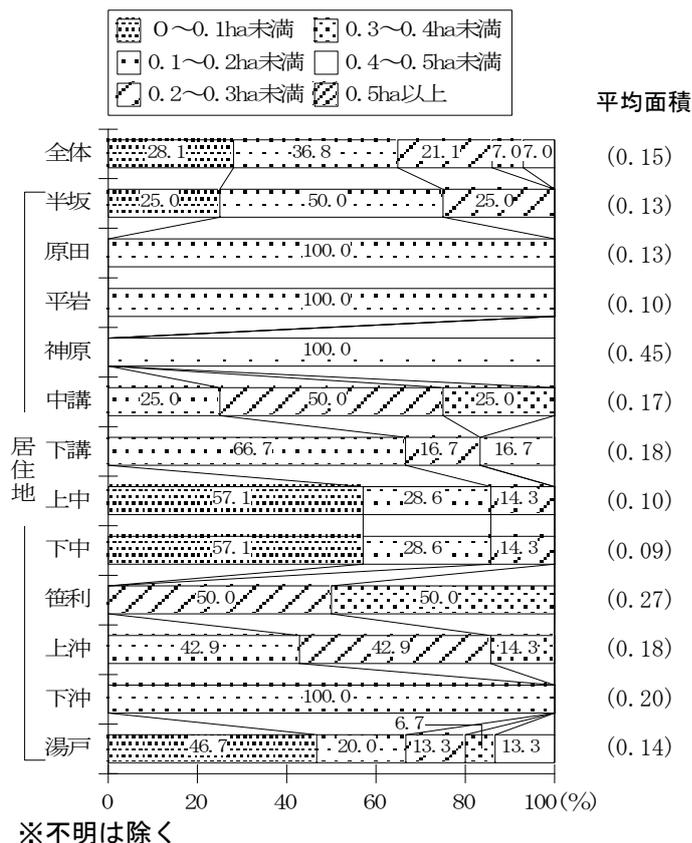


※不明は除く

③ 休耕田の面積

- 全体では、“1～2反(0.1～0.2ha)未満”が36.8%と最も多く、次いで“1反(0.1ha)未満”が28.1%、“2～3反(0.2～0.3ha)未満”が21.1%となり、3反(0.3ha)未満が86.0%となっています。
- また、休耕田の平均面積は1反5畝(0.15ha)と、田の平均面積(2反8畝)の半分程度(53.6%)となっています。
- 地区別で見ると、神原、笹利で休耕田の面積が相対的に広がっています。

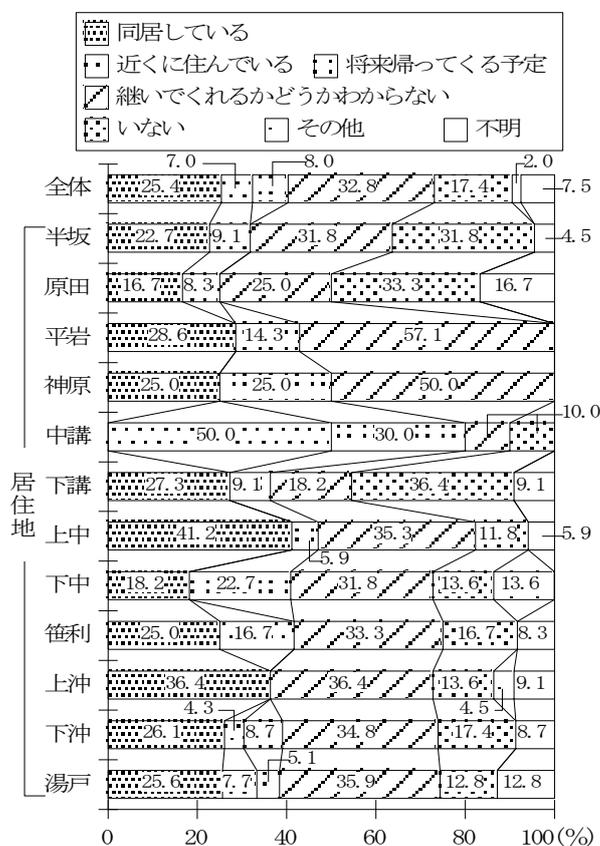
図 休耕田の面積



④ 農業後継者

- 全体では、“継いでくれるかどうかわからない”が32.8%と最も多く、これに“いない”(17.4%)を加えると過半数(50.2%)が少なくとも現時点で農業後継者(予定者)がいないこととなります。
- 地区別で見ると、“同居している”、“近くに住んでいる”、“将来帰ってくる予定”を加えた値は、中講で80%と高く、また、上中では“同居している”が41.2%に達しています。
- 一方、原田、半坂などでは、少なくとも現時点で農業後継者(予定者)がいない割合が高くなっています。

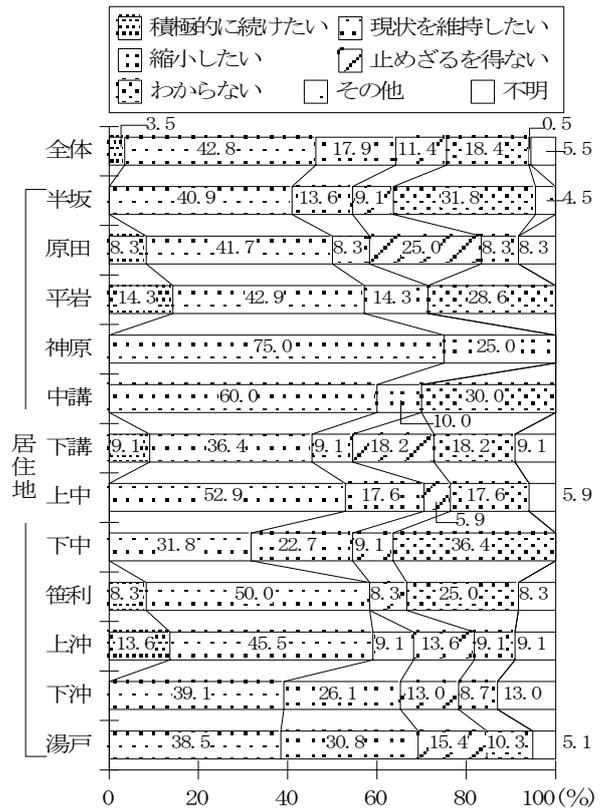
図 農業後継者



⑤ 営農意向

- 全体では、“現状維持”が42.8%と最も多くなっていますが、“わからない”(18.4%)、“縮小”(17.9%)、“止めざるを得ない”(11.4%)を加えた営農に対する消極的な意向も47.7%に達しています。
- 地区別では、神原、平岩、中講などで“現状維持”を中心に営農意向が強いといえますが、下中、下沖、湯戸などでは、営農に対する意向は弱いといえます。

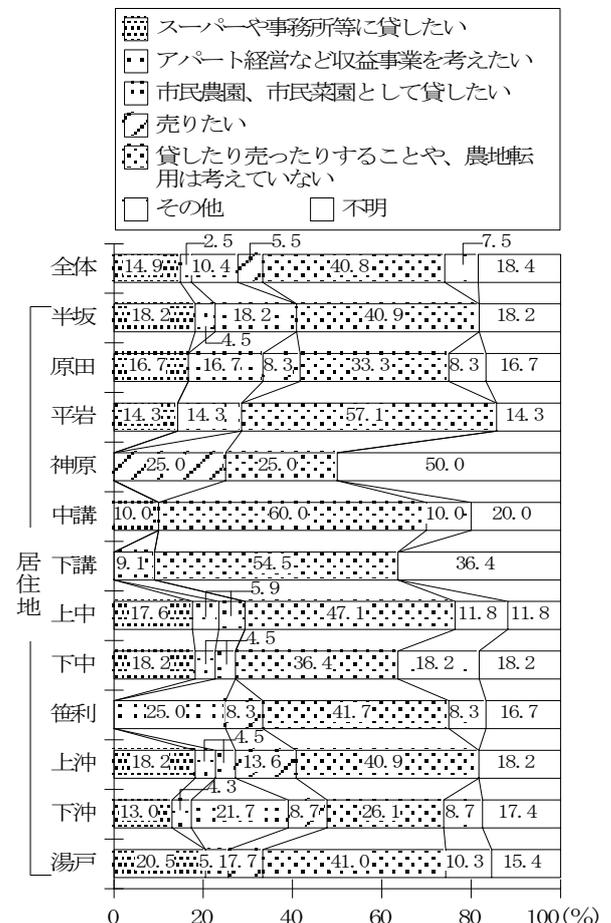
図 営農意向



⑥ 農地の活用、処分等の考え

- 全体では、“貸したり売ったりすることや、農地転用は考えていない”が40.8%と最も多く、次いで“スーパーや事務所等に貸したい”が14.9%、“市民農園、市民菜園として貸したい”10.4%となっています。
- 地区別でみると、中講、平岩、下講では“貸したり売ったりすることや、農地転用は考えていない”が過半数を占めています。
- 一方、下沖や上沖、原田、半坂などでは、農地の転用や売却、収益事業化、賃貸などを考えている割合が相対的に高いといえます。

図 農地の活用、処分等の考え



(8) 自由意見

- 石内のまちづくりに関する自由意見は、102票に記入され、それらを分類すると195件（1票に複数意見あり）となります。
- 全体的な傾向としては、その他を除くと、“総合病院、救急病院、医療施設の誘致(不便さ)”をはじめ公共施設に関するものが39件、“市街化区域への編入”や“土地区画整理事業の推進”など都市計画・開発・整備・保全に関するものが23件、石内の将来イメージ、目標に関するもの18件、構想づくり、まちづくりの進め方に関するもの17件、商業・娯楽に関するもの14件、魅力づくりに関するもの11件、道路交通に関するもの10件となり、これらが10件以上で上位にあげられます。
- この他では、自然環境・農地に関するもの8件、下水道に関するもの6件、交通安全・防犯に関するもの5件などとなっています。
- また、その他としては、多岐に渡る意見が41件ありますが、その中でも“財産の(一部の)町内会への配分”が9件あがっています。

表 自由意見

区 分	指摘数 (件)	主な意見
公共公益施設	39	○総合病院、救急病院、医療施設の誘致（不便さ） ○公園、遊び場。自然とスポーツの広場 ○郵便局の設置。郵便局、銀行の不便さ ○福祉センターのスーパー銭湯化、物産販売。温泉 など
都市計画・開発 ・整備・保全	23	○市街化区域への編入 ○土地区画整理事業の推進 ○現在の環境の保全、現状維持。人口増加（住宅地開発）は不要 など
石内の将来イメ ージ、目標	18	○子どもから高齢者までが安全で住みよい、やさしいまちづくり ○若者の定住 ○子ども達を育むまちづくり など
構想づくり、ま ちづくりの進め 方	17	○早く構想をまとめて欲しい ○長期的な展望に立ったまちづくり ○人心を一つにすること、リードすることが協議会の大きな仕事 など
商業・娯楽	14	○商業施設（スーパー等）の誘致。なくて不便 ○コンビニの誘致 など
魅力づくり	11	○石内川の管理道を散歩しやすいように（舗装など安全対策） ○打ち上げ花火（夏祭りのとき） ○昔の山道を生かした遊歩道の整備 など
道路交通	10	○交通機関の不便さ。バス路線の整備・充実 ○道路の整備。道路の整備が第一 ○生活道路の拡張・新設 ○アストラムラインの延伸（石内、五日市） など
自然環境・農地	8	○自然環境を大切に。自然環境の保全 ○農地の荒廃の防止。荒廃しつつある ○自然や農業の大切さを子ども達に教える など
下水道	6	○下水道の整備 ○合併浄化槽の補助金の増額 など
交通安全・防犯	5	○通過交通が多く危険。スピード超過 ○家の前まで救急車が入れない ○昔のように鍵をかけずに外出できるような安心できるまち ○防犯灯の設置など
川・水路	3	○半坂の川の復活（植物、生き物） ○川に下りることができない（下水の回り） ○石内川の防災 など
その他	41	○石内南町内会が石内町内会に入ることに対応した財産の活用を検討。一部町内会への配 分 ○石内の財産（4.4億円）の有効活用 ○善正寺の石碑は場所が違う ○協議会は小さくてもできるものから実行を。目に見えることを など